

平成29年度 土浦日本大学高等学校自己評価結果

平成30年度 取組目標とその方策			
校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
教育活動 (教務)	教員の資質の一層の向上を目指す	公開授業や校内研修を定期的実施し、主任教員を中心にベテラン・中堅教員が新任教員をサポートできる体制を整える。外部研修会へは引き続き積極的な参加を促す。	年間計画に基づき進め、外部研修は随時案内する。
校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
教科指導 (教務)	次期学習指導要領に向けた適切なカリキュラム編成準備を進める	アクティブラーニングやe-learning, ICT機器の本格的導入にあわせ、その利用の具体的方策を各教科と連携しながら研究したい。大学入試改革を見据え、ポートフォリオの準備や英語検定活用などの対応策、カリキュラム作成準備を推進したい。	カリキュラム検討委員会を定期的開催するほか、教科会・分科会等を機能させたい。
校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
学校生活への配慮 (生徒指導)	①伝統の継承	良いものはそのまま継続し、新しく導入したものは土浦日本大学高校のスタンダードになるように努力する。生徒・教員とも先輩から後輩へと繋がる指導を行なう。あいさつの励行、端正な頭髪服装の徹底、社会のルールやマナーの遵守、いじめの根絶を生徒努力目標として掲げ、各目標について様々な施策を講じていく。	タイムリーに指導をおこなう。
	②愛校心を持つ生徒の育成	誇りや愛校心を持った生徒を一人ひとり育成していく。その基本は挨拶と頭髪服装指導である。特に挨拶は自然とできるようにしていく必要があり、そのための啓蒙活動に力を入れ基本であることを認識させる。教員が積極的に挨拶する。生徒努力目標である「あいさつの励行」、「端正な頭髪服装の徹底」を達成すべく努力を重ねる。また、校歌を歌う機会を普段から設け、愛校心を育成していく。	タイムリーに指導をおこなう。
	③人権や心の教育に関する理解を深める。	いじめ防止対策室、教育相談室と連携し、人権や心の教育を推進し、思いやりのある心を持つ生徒を育てる。生徒努力目標である「いじめの根絶」は人権や心の教育の根幹である。様々な機会を捉えて、生徒への指導をする。また、教職員の理解も必要なため、教職員会議などを利用して認識を共有し深める。	教育講座、講演会の企画立案を実施する。 教職員会議を通して共通理解を図る。
校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
生徒会・部活動 (生徒指導)	生徒の主体的な活動を通して、校是に謳われる「自立」の具現をめざす	①生徒会を中心とした委員会の組織づくり。活動計画を立て、効果的に活動を行なう。 ②生徒会報の恒常的な発行、ホームページ等での発信を可能にできるように、生徒主体の活動ができるようにする。 ③活動計画の立案。活動記録を「クラブ活動報告書」に委員会活動・生徒会活動も併記して残す。男子運動部の県総体総合優勝を目指し、生徒個々が努力をするようにする。また、女子も今年度14年ぶりの総合優勝を果たしたので、男女アベック優勝を成し遂げられるように、強化指定部だけでなく学校全体で盛り上げていく。	各委員会毎に計画に沿った日・内容で活動する。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
進路指導	①新付属推薦システムへの対応	新付属推薦要項をもとに、基礎学力到達度テスト対策室を中心に指導体制の強化を図るとともに、新付属推薦システムの研修を重ねる。LHRや保護者会を通して生徒・保護者の新システムへの理解をより一層深め、志望内容に関わる指導の強化に努める。入学前教育の充実を図るべく、基礎学力到達度試験後も、高校での学習内容を確固たるものにするための教育を徹底してゆく。	日本大学からの情報はその都度伝達していく。教職員へは、学年会・教職員会議で情報を伝える。保護者・生徒へは、懇談会・面談を通じて詳細に伝えていく。
	②国公立大学、難関私立大学合格者数の増加	模擬試験のデータ分析や入試情報の発信などを含めて、各対策室、コース学年とタイアップした指導を目指す。また、出願先検討会についても積極的に取り組み、合格者増加に努める。また、基礎学力到達度試験対策室の指導体制の強化を図りながら、日本大学への進学実績を向上させると同時に、2020年の入試制度改革を見据えて英語力の強化に努め、4技能の能力向上に対応した情報提供を行ってゆく。また推薦入試制度の比率の増加に対応して公募推薦入試対策などをより一層強化する。国公立大学は、地元大学のみならず地方の国公立大学の魅力についても知ってもらうため、説明会や見学会に積極的に参加させ、合格者数増につなげたい。特に、近年は、医療関係をはじめ志望の多様化が顕著であるので、そのニーズに応えるべく説明会なども工夫を加えてゆく。地元のニーズに応えるべく筑波大学、千葉大学、茨城大学、県立医療大学は、進学者数を増やすための特別指導・推薦入試対策・個別面談等を積極的に指導する。	年間行事予定表に準じて実施する。
	③推薦入試、調査書、進路統計、各種調査報告等の適切な運営・処理	日本大学の新付属推薦制度の対応のために、基礎学力到達度テスト対策室、情報処理室と連携して、新システムに対応した処理工程をより高めて行く。また、入試の多様化に対応するため、従来の処理工程も、さらにバージョンをアップするようにし、各種模試や進路関連データ分析についても、各教科やコース、学年での参考資料としてより有益になるようにしてゆく。志望理由書作成、面接の指導力に関する研修会を実施し、生徒に対して一層豊富な情報を提供できるようにしてゆく。新課程では、調査書の記載事項などにも変化が見られるので、その対策も講じてゆく。	29年度用合否入力システムは、昨年度の経験を踏まえ、円滑に機能するように配慮する。
	④進路指導部教員による進路講演会の実施	付属推薦制度に関するマニュアルに従って、より円滑に進路指導ができるようにする。進路指導部教員だけでなく、全教員が進路講演会やガイダンスで正確に説明ができるよう研修する。新課程への知識を深め、未来を展望した進路指導ができるように努める。	各支部の進路説明会での担当者の調整を早めに行う。他は、年間行事予定表通りに実施する。
校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
体育施設	教職員及び生徒の安全管理	体育館・グラウンド・かすみがうら桜グラウンドは、施設の老朽化が見られる部分もあるので、定期的な点検を行ない危険な箇所を確認した場合は、事務局担当者へ連絡をし、直ちに修繕補修を行なう。また、その他の破損等の報告についても同様に対処する。常に安全管理ができるように、年間を通して見回りを実施する。但し、「壊れたら直す」の前に「壊れないように」使用する指導も行なう。	事務局担当者と連携をして、年間を通して施設の見回り確認管理をする。危険なところが見つかれば、直ちに事務局担当者へ連絡し修理をお願いする。基本的に毎学期始めに確認する。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
保健衛生	生徒及び教職員の健康の保持増進	健康診断や保健室での対応を中心に、個々の生徒の健康管理能力を高める。年間計画に基づく教職員の健康診断実施。	年間計画を通して実施。
	生涯にわたる健康管理能力の育成	保健室のセンター的役割の充実と教育カウンセラー・関係教職員との連携を密にした組織的支援の充実をはかる。	年間を通して実施していく。
	教育環境の保健安全確保	事務局との連携によって、施設・設備の充実をはかる。	年間を通して実施していく。
校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
教育相談	生徒の学校生活への適応を支援する。	①新入生に対する教育相談ガイダンス（構成的グループエンカウンター・エゴグラム・教育相談室利用案内）を入学当初に実施する。 ②生徒の実態調査（年6回の「学校不適應調査」、年3回の「高校生活に関する調査」、学校欠席者情報システム）により長期欠席者の把握し、いじめ防止対策室との連携を重ね、生徒の実態把握に努める。 ③各調査から掴んだ情報を元に、学年・担任との連携・共通理解を深め、学校カウンセラーの助言を受けながら、必要に応じてカウンセリングや個別指導計画の立案も含めて学校生活への適応を支援する。また、保護者に対しても同様の連携を図り、必要に応じてカウンセリングを勧める。 ④生徒からの相談件数増加に対応し、また、保護者からの相談にも対応しやすいよう、A週土曜日のカウンセラー出勤を確保する。	①4月に実施。 ②年間行事計画に基づいて実施。 ③は随時実施。 ④平成29年度のうちにカウンセラーの次年度スケジュールを確保する。
	教員の不適應生徒への対応を支援する。	①教育相談ガイダンスを教員研修としても位置づけ、学級構成に際しての生徒理解・友好的な人間関係を構築するための指導に繋げる。 ②学校不適應生徒や保護者対応に際して、担任や顧問が問題を抱え込まないよう後方支援する体制を整える。 ③教員に対して学校不適應の現状について学ぶ研修の機会を用意し、案内する。	①4月に実施。 ②随時実施。 ③主に長期休業期間に実施。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
いじめ防止対策	いじめの未然防止	①生徒集会でいじめ防止対策室からの講話を行う。 ②「いじめの根絶」という全校共通の生活目標を掲げ、担任からの講話を行う。 ③各クラスにいじめ防止標語を募集し、佳作を表彰する。 ④「ネットモラル勉強会」を1年生対象に実施する。	①各学期一度 ②4週に一度 ③2学期 ④4月
	いじめの早期発見	①「いじめ早期発見のためのチェックリスト」を全教員が常時携行する。 ②生徒対象にアンケート調査を年3回実施し、面談時も聴き取り調査を行う。また、保護者との面談時にも聴き取り調査を実施する。 ③教育相談部と連携して相談受け入れ体制を整える。	①随時 ②5月, 10月, 1月 ③随時
	いじめへの適切な対応	①把握した事案に対しては、いじめ防止対策室を中心として組織で調査・認定・対応策検討を行い、担任・顧問等関係教員を支援し抱え込みを防ぐ。 ②被害生徒の支援を最優先しつつ、加害生徒の指導も行う。 ③関係保護者と情報を共有し、支援・指導における連携を図る。 ④重大事態が発生した場合は県に報告し、外部有識者の協力も得て対応にあたる。また、犯罪行為の場合は警察とも連携する。 ⑤いじめ問題に対する教員の意識を向上させ共通理解を深めることを目的として、職員会議において問題提起や情報提供などを行う。	①②③④随時 ⑤毎月一度
	いじめの再発防止	①事案に応じた再発防止策を検討し、その実行を確認する。 ②発生した事案を全教員が共有し、同種の事態の発生を防止する活動に繋げる。 ③いじめ解消は「3ヶ月止んでいること」「被害生徒の心身の苦痛がないこと」を基準として判断する。	①②③随時

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
図書	①書誌情報の整理を進める	土浦日本大学高等学校、岩瀬日本大学高等学校、土浦日本大学中等教育学校の各校で同じ書誌と所蔵データを持っていることがあり、検索した時に同じ書誌が複数出ないように、ひとつの書誌に所蔵データをひもづけるよう3校共通認識で整理していく。膨大な書誌情報の整理には時間がかかるが、検索頻度の高い文学、新書、社会科学の分野から優先的に進める。T001-i から書誌データをダウンロードして所蔵登録の組み換えを行う。学習書や視聴覚資料は市販の書誌データがないため、書誌を一つずつ手作業で入力している。これらの書誌も見直し、簡易な作りの書誌は完全な書誌に作り直す。	年度当初より取り組む。
	②洋書・語学資料の収集に努める	コースの課題で利用頻度の高いリーダー（読み本）は、新規購入に加え、レベル別で複本の購入も検討する。英語科の授業とタイアップした洋書を揃えるため、教科や英語科の教員からリクエストを募り、ニーズに合った資料を揃える。文学、社会科学、自然科学の分野で興味を持ちやすく読みやすい洋書を選書し収集する。海外の大学や諸外国での活躍を目指す生徒のため、英検やTOEIC、TOEFL、IELTSなど各種検定の本や語学資料を増やし、学習の機会を提供する。	年度当初より取り組む。
校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
広報 (情報入試)	①併願5科入試の定着と受験生の確保	併願5教科入試を定着させるためにオープンスクールや塾対象説明会、中学校訪問の際に発信できる情報を正確に伝える。オープンスクールの予約等の個人情報を管理して入試志願情報と連携することで、個人単位の広報展開する。また、併願5科入試受験への付加価値を高める施策を検討する。	年間を通して実施
	②情報の収集及び共有化を図る	情報収集項目の選定・報告を行い問題点を探し出し共有化し、より良い企画の考案を図る。	年間を通して実施
校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
管理運営 (教学)	①いじめ根絶	いじめ防止対策室を拠点に、講話や勉強会、学級での指導を重ね、家庭とも連携して生徒の更なる意識向上と精神的成長を促す。	年間を通して計画的に取り組む
	②国公立大学合格者数の向上	国公立大学対策室を拠点に、指導法・形態の改良を重ね、東京大学・筑波大学・茨城大学の合格者数の向上を推進する。	年間を通して計画的に取り組む
	③基礎学力到達度試験対策の充実	基礎学力到達度試験対策室を拠点に、付属推薦制度利用による日本大学合格者数の更なる向上を目指し、学園全体の目標達成に寄与する。	年間を通して計画的に取り組む
	④大学入試改革への対応	カリキュラム検討委員会を拠点に、大学入試改革・新学習指導要領への対応策を検討し、実行に向けた準備を開始し、その動きを軌道に乗せる。	年間を通して計画的に取り組む

管理運営 (事務)	①教育方針と指導目標の明確化	創立50周年を経て打ち出された新たな学園方針・学校方針に基づき、保護者・卒業生・地域社会の期待にこたえる活気ある学校づくりを目指し、理事長・校長以下が一致団結して生徒の教育に取り組んでいく。	年度当初から継続して取り組む。
	②校務分掌機能の高次元化	教学との連携の下に、校務分掌の編成と委員会の編成がより効果的に行われるように、人事業務のさらなる質的向上を図っていく。	年度当初から継続して取り組む。
	③学校自己点検評価の活用	生徒授業アンケート、教員自己評価、活動報告書など学校自己点検に係わる調査報告を有効に活用して、部署としての改善点を積極的に取り上げ、迅速に解決を図っていく。	一年間を通して有効に利用する。
	④教育環境の充実・維持	教育環境の充実が、教育に与える多大なる影響を考慮し、生徒が、快適且つ便利で、学校生活を送りやすいと実感する教育環境の整備を心がけていく。職員が職務の社会的・教育的意義を感じ取って計画的に業務を遂行していく。	計画的に進めると同時に、安全確保を最優先に取り組む。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
庶務	①式典や父母と教師の会の行事その他庶務事項の更なる改善	式典や行事については各係と他部署との連携を密にし、反省事項を基に積極的・計画的に改善を進めていく。スクールバスについては、交通網の拡大に合わせて通学時間の短縮化を図るべく新たなルートを検討していく。その他の庶務事項についても運営方法などについて効率化・正確化を図る。父母と教師の会主催の催し物への協力態勢をより洗練されたものにするべく検討と実践を重ねていく。	年間計画通りに実施していく。
	②防災・安全・危機管理などの強化	防災マニュアルに従って緊急時に備える。緊急情報メールシステムの活用方法にさらなる工夫を加えていく。防災に対する教員の意識は高まったが、その運用力を向上させるべく、学外の研究会に積極的に参加させていく。また研修会で得た知見が現場で生かされているか検証していく。	年度当初より速やかに取り組む。
	③同窓会の活動の活性化	本校教員の同窓生と学年幹事を参加させ、専門委員会の活動を定期的に行い、より活発な活動を目指していく。ホームカミングデーとの連携を進めHCD委員の増員を図っていく。新会長の下で、執行部の若返りを引き続き図るべく交流会などを積極的に行っていく。交流会などを増やし、会自体の活性化を推進する。	年度当初より速やかに取り組む。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
総合進学コース (含スポーツクラス)	①学習指導	<p>1 学年：予習→授業→復習の学習スタイルを早期に確立できるよう指導を行う。二者面談やスタディサポート、家庭学習時間調査をもとに、生徒一人ひとりの学習状況を掌握する。各種レポート作成等様々な場面で文章力の向上に向けた働きかけをする。</p> <p>2 学年：「基礎学力到達度テスト」に向けて早期の意識付けを継続し、日本大学への理解を深める。予習→授業→復習の学習スタイルが継続して行われるよう、朝テストおよび週末課題を実施する。生徒が自主的に学習できるよう意識改革を図る。</p> <p>3 学年：学年と教科担当者が連絡を密にし、情報の共有化を図り、教員一人一人が個々の生徒に責任を持つ意識で臨む。「基礎学力到達度テスト」に向けて課外授業等を計画的に実施し、学力の向上を目指す。早い段階で「できる」「解ける」を実感させ、最後まであきらめず学習に取り組む姿勢を持たせる。また、基礎学力到達度テスト後の卒業前学習の充実を図る。</p> <p>スポーツクラス：生徒の学力や人間性を個別に把握する事に努める。各生徒、「個に応じた」手厚い指導体制を、学年の教員・部活動顧問が連携を図って構築していく。</p>	年間行事予定に基づいて実施する。
	②進路指導	<p>1 学年：中学と高校、高校と大学の違いを知り、大学ですべき研究の概要を理解させる。進路ノートおよび進路適性検査などを通して、自己分析・自己理解ができるように指導する。進路ガイダンスや社会人講演会などの機会に、適正な文理選択ができるように指導する。また日本大学への理解を深める指導を行う。</p> <p>2 学年：二者面談等を利用して生徒の進路意識を喚起する。進路ノートやオープンキャンパス等を活用し、学問系統からの進路目標を選択できるように指導する。日大出張講義や学部進学説明会等の行事を通じて、日本大学への進学意識を高める。</p> <p>3 学年：日本大学への進学者80%を目標に、日本大学の魅力を伝え適切な進路指導を行う。さらに成績上位者には国公立大学を含め他大上位校への進学を目指させる。また各種進路関係の行事に、目的意識を持って参加させる。大学主催行事への積極的な参加を促す。「志望理由書サポート講座」を活用し、志望理由を明確化にして進路決定ができるようにする。</p> <p>スポーツクラス：第一に、生徒個別の学力の把握に努める。それを基にしたホームルームでの進路指導を重要視し、さらに、進路ガイダンス等を利用して進路意識の高揚と準備を促していく。AO、推薦、日大基礎学力到達度テスト等、あらゆる受験への対応を図り、生徒の充実した進路実現に努める。</p>	年間行事予定に基づいて実施する。
	③生徒指導	<p>1 学年：土浦日大高校の生徒としての自覚を持ち、落ち着いた学校生活が送れるようにする。挨拶を励行し、ルールやマナーの理解と基本的な生活習慣を整える。コミュニケーションの重要性を理解させ、自分勝手な解釈や理解、判断をしないよう指導する。学校不適応生徒の早期発見に努める。</p> <p>2 学年：挨拶の励行を常に意識させ、折り目正しい生活態度を養う。服装頭髪の指導に加え、安易な欠席・遅刻を無くしていく。他者を思いやり、自分勝手な行動の無いよう、社会人の振舞いができるように指導する。学校不適応生徒の早期発見に努める。</p> <p>3 学年：「自ら進んで挨拶をする」生徒を育てる。頭髪服装のクラスを越えて指導を徹底する。出席率99%をめざし安易な欠席をしないように継続的に指導する。進路決定後の生活に乱れがないように留意する。</p> <p>スポーツクラス：部員である前に生徒である、という意識を浸透させる。生活の乱れはプレーの乱れと心得て、挨拶、礼儀、言動など、他の生徒の模範となる運動部員であることを目指していく。</p>	年間行事予定に基づいて実施する。

	④特別活動指導	<p>1 学年：HR活動をしっかりと責任を持ってできるよう指導する。蓼科宿泊学習において、集団の一員として責任と自覚を持った行動、他者理解ができるように指導する。学校行事にクラスが一体となって取り組めるようにする。生徒会、部活動加入率を高め、積極的な参加を促す。</p> <p>2 学年：学校行事にクラスが一体となって取り組めるようにする。文化祭・体育祭などの学校行事や部活動・委員会活動において中心的な活動ができるよう積極的な参加を促す。修学旅行の事前指導、事後指導を徹底し研修を充実させる。</p> <p>3 学年：最高学年として部活動・学校行事での中心的役割を担うように積極的に取り組ませる。土浦日本大学高校生としての誇りを持たせ、後輩の模範となるような学校生活を送らせる。</p> <p>スポーツクラス：学校の活性化をリードするスポーツクラスの生徒として、自覚と自主性を促していく。各種学校行事に率先して取り組み、他の生徒からの信頼を受ける生徒に成長させていく。</p>	年間行事予定に基づいて実施する。
校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
特別進学コース	①学習指導	<p>主体的な学習態度と揺るぎない学力の確立を目指す。また、入試制度の改革を見据えて、従来の特進コースの指導に加えて、探求型学習の実践に取り組む。学力の3要素として①知識・技能の習得②（①を基にした）思考力、判断力、表現力に加え、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の育成が求められている。特進コースとしての新たな③に対応する取り組みとして、1学年にインタレストラーニングを導入する。インタレストラーニングは、自然科学から芸術・スポーツまで、教科・ジャンルにとらわれず生徒の興味・関心を引き出すことにより、高大接続改革による多面的・総合的な評価を導入する入試に対応するための取り組みである。通常の授業ではできないような企画を教員それぞれが提案し、生徒が企画を選んで集中的に学ぶ。夏休み（4日間）冬休み（3日間）を利用して実施し、年度末に成果を発表する。2学年は生徒との個別面談を通じて学習記録簿等を作成し、生徒の学習状況を可視化し、それぞれの課題を明確にして基礎学力の定着を図っていく。また、英検2級取得を促し、サポートしていく。3学年は志望校に合格できる学力を身につけさせるために、授業プランを提示し、教科担当者との面談で個々の課題をあぶり出し、少人数の学習会を計画していく。</p>	<p>1 年生 1 学期～ 高校生として、特進コース生としての意識改革、学習スタイル構築推進</p> <p>2 年生 1 学期～ 文理・志望別学習における重点項目の徹底学習を実施</p> <p>3 年生 推薦入試含めた受験計画を1学期中に整え、面談では、ゴールイメージの生徒・保護者と教員との共有を図り、最後まで努力することを確認する。</p>
	②進路指導	<p>高大接続改革に関わる入試改革の情報が不足しているため、教員が積極的に各種研究会への参加して、情報収集を活性化させていく。入試改革の正しい理解に努め、発信されている情報を精査し、それに対応する指導を実践していく。2学年は大学や研究室訪問を実施し、大学や学問への具体的なイメージを育んでいく。さらに、大学と連携した小論文指導やビブリオバトル等を通して、論理的思考力、表現力、プレゼンテーション能力を身につけさせる。3学年は特に公募推薦の受験者に対して、志望理由の明確化や学部学科研究の指導を強化していく。どの学年も、個々の生徒の個性を見極め、長所を伸ばしながら、従来以上の成果を生み出させるような指導をしていく。</p>	各学年とも1学期のうちに計画に沿った意識の向上を指導する。

	③生徒指導	特別進学コースの生徒としての誇りを持たせて、大きな声でしっかりと挨拶ができ、社会の一員としての自覚ある言動ができるように指導していく。現在、規範から大きく逸脱する生徒はいないが、生活態度に対しては、生徒に対して遠慮や妥協は絶対にしないようにする。担任による継続的な講話・指導を通して、いじめやSNSに関する注意を繰り返す。また、保護者との連携して、生徒を心理面からサポートする体制を整える。	SNSについては、入学直後に指導の機会を設ける。いじめにつながりそうな案件は、最優先で対処する。学年集会は定期的で開催し、指導の機会とする。
	④特別活動指導	入試改革では、英語の4技能を習得することが求められているので、総合学習で従来実施していた小論文学習をネイティブ教員等が担当する英語のスピーチ指導へと形式を変える。思考力や表現力の育成といった趣旨は変更しない。また、体育祭や文化祭、蓼科の合宿などの学校行事へ積極的に取り組ませて、集団への帰属意識を確立させ、協調性や他者に対する思いやりの心を育む機会とする。	1年生の段階で、高校生活のリズム・ペース・習慣を整え、様々な事に前向きに取り組む姿勢を養っていく。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
グローバル・スタディコース	①学習指導	問題解決能力を身につける事が目標 中学校までの学習習慣から脱却し、アクティブな学習スタイルを構築する。1年生で基礎を整え、2年生で実践し、3年生で活用できるよう、短期留学・中期留学、スピーチやディベート練習などを利用し、論理的思考力・表現力の向上を目指していく。検定試験への挑戦を奨励するとともに、ICT機器の運用法の研究をさらに進めていく。取り分け、コースの性格上、実戦的英語力の向上をめざす。	入学直後から意識の改革と、学習姿勢の改革に取り組む。
	②進路指導	調べ学習や実際の校外活動で得た経験をもとに、視野の広い知識と、それを組み立てる論理力・構成力を養う。1年次に職業研究・学部学科研究を、2年次に入試制度研究を進め、進路選択の具体化につなげる。それらをGSコースの目指す問題解決能力につなげ、リベラルアーツ教育の徹底により、3年次では推薦入試に対応できる小論文記述能力や面接対応力の充実を目指す。	総合学習・LHRに加え、各教科の授業にも協力を依頼し、年間計画を立てて進める。
	③生徒指導	入学直後にSNSのルールとマナーについて理解させる。互いの存在を認め合い、自分自身を理解する。GSコースの目指す理念を念頭に、個々を大切に意識を高めていく。様々な行事で互いに協力し合う中でそれらを育む。TPOに合わせた身なり・行動が取れることこそが国際人としてのマナーの第一歩であると理解させる。	総合学習・LHRに加え、コース集会も利用し、年間計画を立てて進める。
	④特別活動指導	GSコースの生徒こそが「文武不岐」を実現すべきとの考えに基づき、学校行事、生徒会・委員会活動への積極的参加を促す。学級内では一人一役を課し、全ての生徒が学級運営に参画するホームルーム作りを行う。課外活動、部活動への参加も奨励し、活発な高校生活を目指させたい。これら実践的取り組みを有効に活用し、行動力に加え、論理的思考力・表現力の向上につなげる。	各行事に合わせ、事前・事後の指導を充実させる。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
情報処理	①保護者向けホームページリニューアル	外部向けページは「とんがりクンCMS」を利用したりリニューアルが完了しているが、保護者向けページは年度更新(進級)をとまなうためCMSによる実装が難しく公開が大幅に遅れている。早期に設計を確定し現行ページを「とんがりクンCMS」の形式に変換するとともに、学年・部署のホームページ担当者対象に「とんがりクンCMS」を用いたページ作成・認証申請の研修を行い、エンドユーザー(学年担当者)によるページ更新を実現する。	4月 サイト構成と年度更新方法の確定 6月 現ページのCMSへの変換・修正。 7月 学年・部署のホームページ担当者の技術研修。 8月 「とんがりクンCMS」による保護者向けページ公開。
	②校内基幹サーバーの更新	現行の校内サーバは2018年12月で保守満了を迎える。現サーバの性能については何ら問題は無いが、毎日の夜間増分バックアップが朝までに終わらず、一時的に利用者がネットワーク上のデータにアクセスできないという問題が発生している。入れ替えに際しては現行機種から性能を落とすことなく、このバックアップの問題点を解消出来るシステムにする事、無停止(最低でも夜間の数時間の停止)での入れ替えを行う事に留意する。	1月 機器構成の概要を確定 6月 機種確定 10月 新サーバー構築
	③生徒系無線LAN設備の拡充	平成29年度は校舎内のどの教室からでも無線LANにアクセスできる環境を整備する事を目標として本館・2号館で2教室に1台のアクセスポイント設置を実現した。授業を行う教室としては3号館演習室が未設置となっているためこの事業を継続して実施する。	5月 アクセスポイント設置。
	④Microsoft 製品の契約形態変更に伴う製品の活用	Microsoft社製ソフトウェアについて、これまでのスクールアグリメントと呼ばれる学校所有の機器台数で算出する契約形態から、OVS-ES と呼ばれる教職員数で算出する契約形態に変更する。OVS-ESの導入により教員・生徒個人のPCについてもMS Officeが利用可能になる。またOffice 365 for Educationを利用する事によりクラウドでのデータ共有等も可能になる。クラウド利用については、初年度は活用に向けての情報収集を中心に行う。	4月 契約、テナント作成・基本設定
	⑤進路システムの改良	現行の進路システムは旧付属推薦制度下のシステムを新付属推薦制度に対応させてきたもので、新付属推薦制度には必要の無いデータ項目やクエリ・レポート・フォームが残ったままになっている。改良にあたっては旧制度下のみで使用されていたオブジェクトを削除するだけでなく、テーブル構造についても見直しを行い、シンプルなシステムに改編する。また基本データをSQLサーバに移行しより堅牢なシステムにする。	4月 オブジェクトの仕分け・テーブル構造の見直し 6月 SQLサーバーへのデータ移行 9月 新システム稼働